

二世の音楽家達を聴く **クルト・ザンデルリンクと ネーメ・ヤルヴィの息子達** **第1回**

プログラム

古くはエーリツヒ・クライバーとカルロス・クライバー親子のように、クラシック音楽界では、二世音楽家達が活躍の場を拓けています。そこで今日は二世音楽家達にスポットを当てるシリーズの第1回です。巨匠**クルト・ザンデルリンク(1912~2011)**を父に持つ**ミヒャエル・ザンデルリンク(1967~)**はベルリンでチェロを学びチェリストとしてスタート。ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、ベルリン放送響の独奏者として活躍した後、2001年ベルリン室内管弦楽団を指揮して指揮者デビュー。2011年ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者に就任、着実に評価を高めています。異母兄弟の兄**シュテファン・ザンデルリンク(1964~)**はレナード・スラットキンやユリー・テミルカーノフに師事、ブルターニュ管弦楽団、フロリダ管弦楽団、シャトウクア交響楽団の音楽監督を歴任、1957年設立のハンブルク交響楽団と2017年来日、好評を博しました。今後が期待される指揮者のひとりです。なお、長男の**トーマス・ザンデルリンク(1942~)**も大阪シンフォニカーの音楽監督を務めたこともある名指揮者です。エストニアの名指揮者**ネーメ・ヤルヴィ(1937~)**を父に持つ**クリスチャン・ヤルヴィ(1972~)**は7歳で渡米、ロスアンジェルス・フィルでサロネンの助手を務めた後、2004年~2009年ウィーン・トーンキュンストラ管弦楽団音楽監督、ロンドン響、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、ドレスデン国立管等世界の名門オーケストラに客演、活動の場を拓けています。兄の**パーヴォ・ヤルヴィ(1962~)**は渡米後カーティス音楽院で指揮を学びオーマンディ、ドラティ、ショルティらに師事、バーンスタインにも教えを受けました。1995年~1998年ストックホルム・フィル首席客演指揮者、2002年~2011年シンシナティ交響楽団首席指揮者、2006年~2014年フランクフルト放送交響楽団首席指揮者、2010年~2016年パリ管弦楽団首席指揮者、2015年からはNHK交響楽団の首席指揮者に就任、また2004年から現在までドイツ・カンマーフィルの芸術監督を務めています。今日最も多忙な指揮者のひとりとして活躍、今後増々の円熟が期待されます。なお、娘の**マーリカ・ヤルヴィ(1964~)**もフルート奏者として活躍しています。

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1827) :

交響曲第7番イ長調op.92~第1楽章、第4楽章

ヨハネス・ブラームス(1833~1897) :

ハンガリー舞曲第5番

ミヒャエル・ザンデルリンク指揮ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団
(2013.6.25 サントリーホールでのLive)

ヨハネス・ブラームス(1833~1897) :

交響曲第1番ハ短調op.68 ~ 第1楽章から、第2楽章から、第4楽章から

シュテファン・ザンデルリンク指揮ハンブルク交響楽団
(2017.7.4 武蔵野市民会館大ホールでのLive)

*** 休憩 ***

ハイノ・エツレル(1887~1970) :

弦楽オーケストラとフルートの為の3つの小品~1. 谷にて 2. 川の上で 3. 牧草地で

カール・ニールセン(1865~1931) :

付随音楽“アラジン”組曲~1. オリエンタル・マーチ 7. 黒人の踊り

マーリカ・ヤルヴィ(Fl)

クリスチャン・ヤルヴィ指揮エストニア国立交響楽団/エストニア国立男声合唱団
(2007.5.26 エストニア・コンサートホールでのLive)

クスタフ・マーラー(1860~1911) :

交響曲第2番ハ短調“復活” ~ 第1楽章から、第5楽章から

ナタリー・デッセイ(S)/アリス・クート(MS)/オルフェオン・ドロステイアルラ(合唱)
パーヴォ・ヤルヴィ指揮フランクフルト放送交響楽団
(2009.5.8 フランクフルト、アルテ・オペラでのLive)